



CNHR Newsletter

CENTER FOR NATURAL HAZARDS RESEARCH, HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学 広域複合災害研究センター

Vol.7 April – June 2022

■新任者のご挨拶

2022年4～7月に着任したメンバーをご紹介します（敬称略）。

- ▶専任教員(6月1日付) 山口真司 (CNHR)
- ▶研究員(4月1日付) 伊藤剛 (読売新聞北海道支社)
- ▶研究員(7月1日付) 村上泰啓 (北海道開発局)

新任のあいさつ

山口真司特任教授

令和4年6月に特任教授として着任しました。専門は、地域防災・マネジメント学で、土砂災害を中心とした防災・減災に向けた対策論に関する研究及び、円滑な対策の実践手法に関する研究に取り組んでいます。北海道は、今後の気候変動による降雨量の増大等影響が大きくなると想定されており、皆様と連携して対応体制の整備に向けた課題に取り組んでいきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

伊藤剛研究員

令和4年度に非常勤の研究員を務めることになりました伊藤です。読売新聞北海道支社編集部で防災担当のデスクをしております。今秋、CNHRと弊社の共催で開催予定の防災シンポジウムで紙面づくりを担当します。防災・減災について読者に分かりやすい情報を提供できるように頑張りますので、皆様、よろしくお願いいたします。

村上泰啓研究員

7月1日より研究員に就任しました村上です。現在、札幌開発建設部河川計画課に勤務しております。3月まで寒地土木研究所で厚真の崩壊地調査に従事し、崩壊で発生した土砂・倒木量の推定を行ってまいりました。センターでは、様々な分野の先生方と連携させて頂き、防災減災のお役に立ちたいと考えております。

■活動報告

● 極端気象による複合災害に関する研究会(予定)

近年、気候変動に伴う豪雨頻度の増加など極端気象による災害が増加しており、こうした極端気象による災害の発生頻度は今後ますます増加することが懸念されます。気候変動のメカニズムや、極端気象による災害についての認識を深め、極端気象によって想定される複合災害について考えることを目的とした研究会を開催する予定です。内容等については当センターのホームページに掲載するとともに、次号以降でお伝えします。

■活動報告

● 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に関する勉強会

北海道最大の脅威のひとつである日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震をテーマに勉強会をオンライン開催しました。勉強会では、津波を含む被害想定の方考え方と限界、津波避難行動の分析と課題、積雪厳冬期に発生した場合における避難の留意点等について講師が話題提供したのち、巨大地震による広域複合災害の防災・減災のあり方について議論しました。

<第1回>

- ▶日時：2022年3月29日(火) 15～16時
- ▶講師：岡田成幸教授 (CNHR) 「概論・被害想定」

<第2回>

- ▶日時：2022年4月12日(火) 13～14時
- ▶講師：谷岡勇市郎教授(理) 「津波浸水想定」

<第3回>

- ▶日時：2022年4月19日(火) 15～16時
- ▶講師：橋本雄一教授(文) 「津波避難行動」

<第4回>

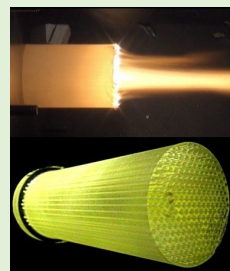
- ▶日時：2022年4月26日(火) 15～16時
- ▶講師：根本昌宏教授(日赤北海道看護大) 「積雪厳冬期避難の留意点」

■研究者紹介

永田 晴紀(ながた はるのり)

工学研究院 機械宇宙工学部門 教授
広域複合災害研究センター 兼務教員

ハイブリッドロケットは防災から遠いテーマですが、火災と共通する機構を扱うことが多いです。我々は固体燃料の軸方向に微細ポートを無数に設けて酸化剤を流し、各ポート出口で微細火炎を定在させる「端面燃焼式(写真)」を研究していますが、火炎が定在する機構は森林火災が強風でも消えない仕組みと共通しており、火災分野の論文を参照することが多いです。



北海道大学 広域複合災害研究センター

〒060-8589 北海道札幌市北区北9条西9丁目
Tel: 011-706-3882 Fax: 011-706-4695
Email: cnhr-unei@cen.agr.hokudai.c.jp
ホームページ: <https://www.cnhr.info/>

メンバー活動報告

名前	所属・役職	専門	最近の活動内容(研究課題など)
山田 孝	センター長 農学研究院・教授	砂防学	広域複合災害減災手法(特に、異種ハザードの重なる区域での災害シナリオと減災手法)、土砂・流木災害減災手法、土砂災害自衛工法、火砕流被害想定手法
井上 京	農学研究院・教授	農業土木学	低平地, 特に泥炭地における地盤沈下に関する研究
鮫島良次	農学研究院・教授	農業気象学	気候資源と農業生産に関わる研究
佐々木貴信	農学研究院・教授	木材工学	災害発生時の倒流木等の利活用に関する研究
笠井美青	農学研究院・准教授	砂防学	山地流域における災害後の地形変化の把握と予測
厚井高志	副センター長 CNHR・准教授	砂防学	火山噴火または地震に伴う大規模土砂生産イベント後の土砂・流木動態に関する研究
桂 真也	農学研究院・助教	砂防学	山地小流域における水文過程および崩壊・地すべり発生予測に関する研究
泉 典洋	工学研究院・教授	河川工学	洪水時における河床変動とそれによる河床粗度の変化や河岸侵食・河道変動のメカニズム
萩原 亨	工学研究院・教授	交通工学	道路における暴風雪災害を防ぐため、CCTVカメラで補足できない区間や路線の視界を車載カメラから評価する技術を開発している。道路管理および他車への情報提供することを目的としている。
永田晴紀	工学研究院・教授	宇宙推進工学	小型深宇宙探査機用ハイブリッドキックモータの開発(本年度中にプロトタイプモデルの完成を目指しています)
江丸貴紀	工学研究院・准教授	ロボット工学・ 制御工学	・大規模フィールドの管理を目的とした非均一なUGV・UAV群によるロボスタSLAM ・港湾の維持管理を目的としたGNSSTRackerの開発
戸谷 剛	工学研究院・教授	機械工学	超小型衛星の熱設計の研究を行っています。最近、超小型衛星用の乱水域検出センサーの研究開発を始めました。
山田朋人	工学研究院・教授	水文学	・気候変動予測手法の開発と洪水リスク評価に関する研究 ・地球水循環システムと極端現象の解明に関する研究
田中 岳	工学研究院・助教	水文学	降雨流出系の確率応答解析に立脚した洪水予測システムの合理的な構築方法に関する研究
安成哲平	北極域研究センター・准教授	大気環境科学・ 雪氷学	北極域及び周辺域における森林火災及びその大気汚染発生の要因分析と予測に関わる研究。また、これらの健康・気候・経済的影響についての分野横断的研究。
石川達也	工学研究院・教授	地盤工学	気候変動に伴う積雪寒冷地の斜面災害形態変化の体系化とそのリスク評価に関する研究
渡部要一	工学研究院・教授	地盤工学	火山灰質土により造成された盛土地盤の液状化特性
橋本雄一	文学研究院・教授	人文地理学	地理空間情報を用いた積雪寒冷地の災害時避難に関する研究
青山 裕	理学研究院・教授	火山学	北海道の活動的火山における火山現象の力学的観測研究
谷岡勇市郎	理学研究院・教授	地震学・ 津波学	広域津波災害軽減に向けて、近年設置された海底地震津波観測網(S-net)を用いた津波即時予測手法の開発研究を実施し、国際誌EPSIに投稿する。
稲津 将	理学研究院・教授	気象学	数値計算・データ解析による気象力学および応用気象学の研究
高橋幸弘	理学研究院・教授	リモートセンシング・ 雷観測	超小型衛星を用いた大規模災害の即時的な観測、およびそれを実現する国際連携の構築
山口真司	CNHR・特任教授	地域防災・マネジ メント学	複合災害発生時の災害対応の実際及び災害対応従事者の人材育成に関する研究
丸谷知己	名誉教授(北海道立 総合研究機構・理事)	砂防学	—
小山内信智	客員教授(政策研究 大学院大学・教授)	砂防学	—
奥野信宏	客員教授(名古屋 都市センター長)	公共経済学	—
今 日出人	客員教授(株式会社ドーコン)	地域防災学	—
岡田成幸	客員教授((一財)砂防・地すべり技 術センター, アジア航測株式会社)	地震防災計画 学(建築系)	—
佐野寿聡	研究員(アジア航測株式会社)	—	—
伊藤 剛	研究員(読売新聞北海道支社)	—	—
村上泰啓	研究員(北海道開発局)	—	—
原田和子	事務	—	—